

<全体分析>

試験時間 80 分

解答形式

選択式・記述式・論述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

昨年度と同様に、世界史探究の大問3題と、歴史総合の大問1題の構成であった。解答数は、昨年度の37個に対し、今年度は41個で、そのうち2個が歴史総合の問題であった。歴史総合の問題を含め、資料・グラフの読み取りや論述の能力が求められる点で、思考力・表現力を求める経済学部の傾向通りといえる。昨年度と形式上の大きな変化は見られなかったことから、総合的に見て難易度は変化なしと判断した。

出題の特徴や昨年との変更点

短い論述問題を多く出題する傾向や年表から時期を判断する問題・資料問題の出題が特徴で、今年度もすべてのパターンが出題された。また、地図問題・グラフ問題・図版問題の出題も特徴だが、昨年度出題されなかった図版の問題が、今年度は教科書に掲載のない図版を含む形で出題された。一方、グラフ問題は、昨年度は6つ用いられたが、今年度は4つ用いられた。総じて難解な知識が要求されるわけではないものの、資料やデータをもとに知識を応用する能力が求められており、単なる史実の丸暗記では太刀打ちできない。

その他トピックス

今年度の大問Iは、歴史総合の重要なテーマである「交通と貿易」から関税を取り上げている。2020年以来経済学部の日本史と冒頭の文章を同じくしているが、昨年度は3問あった日本史との同一問題が、今年度は1問であった。

また、大問1題が歴史総合の出題となった。経済学部の日本史と同一の問題で、世界史・日本史の垣根を越えた歴史学習が強く意識されているといえるだろう。昨年度と同様、グラフ読み取りの根拠を問う問題に加えて、資料の内容を踏まえて論述させる問題が出された。

<大問分析>

番号	形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	選択式 論述式	関税の歴史 (近代～現代)	問1. 日本史との共通問題。正しい関係性の組合せが2つあるが、文章の最後の部分との因果関係で判断する。 問2. リカードは政府の介入を否定したが、リストは政府主導の保護関税政策による輸入制限を主張した。 問3. ①空欄Aは香港。香港返還と50年間の自治は書きやすいが、2010年代の政治的状況を説明するのは難しい。 問5. a シェンゲン協定は1990年締結、1995年発効だが時代判断が難しい。	標準

# 地歴公民(世界史) 慶應義塾大学 経済学部 2/3

II	選択式 記述式 論述式	スペインによる アメリカの植民 地支配 (近世～現代)	<p>問6. ①空欄ウは正確な地名がわからなくても、マヤ文明が栄えたユカタン半島を示す場所を選べばよい。②過去問で類題が出されている。</p> <p>問7. ②チャーティスト運動について書く。この運動は、男性普通選挙（男性の書き忘れないようにしたい）や議員の財産資格撤廃を求めた。③ナロードニキ運動とマルクス主義運動との違いを説明する。それぞれの基盤が農村共同体ミールと都市にあることを指摘する。</p> <p>問8. ②イギリスがイギリス国教会をつくっただけでなくカトリック教会から分離していたことを指摘する。</p> <p>問9. 過去問で類題が出されている。「新しい交易路」とう設問条件から、都市名だけでなく、太平洋を経由した航路であることを忘れずに指摘したい。</p> <p>問10. ①空欄アはケベックで、カナダにある場所を選ぶ。1のニューオーリンズは18世紀に建設されたため当てはまらない。空欄イはニューアムステルダムだが、ニューヨークと同じ場所を選ぶ。</p>	標準
III	選択式 論述式	ベトナム戦争 (近代～現代)	<p>問11. 資料aはファショダ事件、bは第2次モロッコ事件、cはチュニジア保護国化をそれぞれ示している。</p> <p>問12. ①空欄アが「平和に関する布告」なのでレーニン、空欄イが「十四カ条」なのでウィルソンに関する図版(風刺画)を選択する。教科書や図説で顔を知っていると解きやすかっただろう。②ケープ植民地の支配がオランダからイギリスに移り、イギリスの支配にオランダ系住民が反発して北方に移住・建国したことを説明する。</p> <p>問13. グラフで金価格が横ばいなのはブレトン=ウッズ体制下でドルと金の交換相場が固定されていたことによるもので、上昇しはじめる時期がドル=ショックの起こった1971年、イランの武器輸入額がゼロになるのは1979年のイラン革命の影響でアメリカがイランと断交したことによると推測し、グラフが1955～94年であると判断する。</p> <p>問14. 空欄アはヴェルダンなので独仏国境の場所を、空欄イはエチオピアにある場所を、空欄ウはアウシュヴィツィツのポーランドにある場所を選ぶ。</p>	やや難
IV	論述式	【歴史総合】 グラフと資料に 基づく考察 (近代～現代)	<p>問15. 資料aから、日本が工業化により原料を海外から輸入し加工した製品を輸出する構造になったことを読み取り、第2図・第3図から資料a以前の状態がどうだったかを読み取ってまとめる。グラフからは具体的な商品名は判断できないので、そこまで書く必要はないだろう。</p> <p>問16. 題意にある「日本とインドの貿易における主な輸出入品」は、資料aとbを合わせて日本=綿布・インド=綿花の関係を読み取る。また「日本円の為替相場の変動をもたらした日本政府の政策」は日本史の知識（金輸出の再禁止）が求められている。それによりドル・ポンドに対して円安になったことを第4図から読み取って論述しよう。</p>	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

経済学部では、年代整序問題や、出来事の起こった時期を年表中から選ばせる問題が多いため、歴史の流れや事項の前後関係、年号をしっかりと学習したい。経済学部では同じ年に起こった事項でも、その前後関係を判断して史実順に並べさせるような出題をするため、単に年号の数字を覚えるだけの学習では不十分である。また、現代史が頻出テーマであり、類似の資料やグラフがたびたび扱われているため、経済学部の性格を考慮した学習、とくに過去問を解くことは経済学部を受験するにあたって必須といえよう。歴史総合の問題に関しては、昨年度求められなかった歴史的知識を今年度は要求された。歴史総合の教科書の日本に関わる部分の学習を怠らないようにしたい。